

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	鈴木 涼子
主な担当科目	音楽療法テクニックⅣ,音楽療法概説,音楽療法実践演習Ⅰ,音楽療法実践演習Ⅱ,施設実習Ⅲ,修士特別研究(音楽療法)②,卒業論文(原著講読含む)
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	1)学生が自身の強みや課題を自覚し、積極的に取り組み続ける姿勢を身につけることを目指す。 授業では、課題提示とフィードバックを通して学習の継続を支援し、主体的に考え努力する姿勢を育む。 2)学生一人ひとりの状況に目を向けてコミュニケーションを図ることで、安心して学びに向き合える環境づくりに努める。
2025年の教育に関する自己評価	1)例えば、実習の授業において、学生が自身の長所や不足しているスキルを認識し、対象者にとってより有益な音楽療法、より高い音楽療法スキルを目指して主体的に取り組む姿が見られた。 また、毎回Teamsで課題を提示し、個別にフィードバックを行った授業では、ほとんどの学生が継続的に課題へ取り組み、積極的に授業へ参加することができた。 2)出席や課題提出が不安定な学生に対しては、対面やメールで状況を共有し支援を行うことで、学習態度の改善につながった。 ・一方、基幹教員として初年度であり授業構成に迷う場面もあったため、2025年の経験を踏まえ各回の達成目標をより明確にした上で柔軟な授業運営をおこなっていきたい。
2025年のFD活動に関する自己評価	様々な視点からの話を伺い、学生の多様性を改めて認識した。また、学生の多様性を踏まえた指導の進め方、主体的な学びを促す方法などについても理解を深めた。知識や動機づけの程度、文化的背景の異なる学生が共に学ぶ環境において、教員の関わり方、授業の進め方が学習意欲や理解に大きく影響することを再認識し、研修で得た視点を授業に取り入れることで、学生とのコミュニケーションや授業への参加姿勢、学習の継続に一定の効果が見られたと考えている。
授業改善のために取り入れた研修内容	学生の多様性を再認識し、個別の対応や、伝え続けることの大切さを実感した。また知識を一方向的に伝えるのではなく、学生自身が考え、試行錯誤する過程を支援することの重要性を学んだ。これらを踏まえ、課題提示やフィードバックを通じて学習のプロセスを可視化することや、学生が自ら学びに向き合えるようなアクティブラーニングの授業構成を多く実施した。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3373 教員名:鈴木 涼子

1)アンケート結果に対する所見

授業への興味・関心、授業内容のわかりやすさ、総合的満足度において概ね高い評価を得ることができた。また、自由記述では、他者の視点によって気づきを得られたことや、毎回の授業を楽しく学ぶことができたことなど、授業に対する前向きな意見が寄せられた。これらの結果から、対話や学生同士の学び合いを重視した授業運営が、学習意欲や主体的な学びの促進につながっているものと考えられる。

一方で、教育到達目標の達成に関する自己評価については、他の設問と比較すると改善の余地がみられる科目があった。授業で得た学びや成長を学生自身がより明確に認識できるように、学習成果の可視化をさらに進める必要があると考える。

2)要望への対応・改善方策

音楽療法テクニックⅣでは、主に音楽療法に必要な技術や実践力の習得を目指し、実技演習や演奏動画の提出・振り返りを継続し充実させていく。音楽療法実践演習では、相互学習の機会や、課題発掘シート等による自己理解促進の機会を引き続き確保し、多様な視点で検討する力の育成を図る。

また、両科目に共通して、各回の授業内容と教育到達目標との関連をより明確に示すとともに、振り返りや自己評価の機会を充実させることで、学生が自身の成長や学習成果を実感できるよう改善をおこなう。

3)今後の課題

音楽療法教育では、音楽療法に関する知識・技術の習得だけでなく、多角的な視点、コミュニケーション、専門職としての自己理解を深めることなどが重要である。今後も対話や協働的な学びを重視しながら、学習成果を実践場面へ結び付ける力の育成を目指す。また、授業での学びを学生自身が言語化し、自身の成長として捉えられるような支援の在り方を継続して検討していく。

以 上